

たたかう労働組合・回転寿司ユニオンに総結集して、労使関係正常化闘争を完遂しよう！

労使関係の正常化をめざして

3

2025/11/5

編集・発行：回転寿司ユニオン

企業内組合ご一行様、集団移籍があった店舗にあわてて「臨店」

北海道内では、勤続10年以上の「キャプテン」とよばれる役職者らが集団で回転寿司ユニオンに移籍加入するという出来事があったが、この店舗に先日、企業内組合ご一行様があわてて「臨店」し、職場の従業員らに「不満や困りごとはないか」「困ったことがあればいつでも相談を」などと聞きまわっていたという。これにはあきれ笑いをするほかない。何がいまさら「不満や困ったことはないか」だ。現場の従業員は、「一番の不満はあなたたちがユ・シ協定を背景に組合費を取るだけ取って何一つ私たちのためにたたかってくれないことだ！」と言いたいところだろう。

そもそも、「労働組合と経営は『両輪』、もっといえば『同軸』」とか「労使協調路線から更に一步踏み込んだ、労使協力路線を念頭に据えて取り組み」（本坊興一「ゼンショー労連」会長）などと、ひたすら「労」使の「極めて良好」な関係のアピールに奔走する「労働組合」に、誰が安心して相談できているのだろうか。

回転寿司ユニオンに移籍してきた組合員に聞いても、ほとんどが「企業内組合が何か自分たちのために活動しているなどつつも感じたことはない」という。それもそうであろう。前号で指摘した通り、「10年連続の正社員の賃上げを合意」などと誇ってみたところで、現場ではたらく圧倒的多数のクルーには何の実感もないのだ。

そんな「労働組合」がいまさら店舗にやってきていろいろ聞き取りのようなことをしてみても、これに惑わされるクルーなどいるまい。現に当該店舗の組合員も、「10数年はたらいてきてあの人たちが店に来たのなんて見たことがない。何をいまさら…」と冷ややかだ。

黄色組合を利用した不当労働行為に要警戒！ 「ゼンショーが全敗」の過去も

しかし今回の「臨店」、企業内組合が自発的にやったものであればまだいいのだが、万が一会社の意向がはたらいていたとしたら、話は一変する。まさか「すき家団交拒否事件」で都労委から東京高裁まで4連敗し、「ゼンショーが全敗」とメディアに書き立てられてさすがに懲りたであろうゼンショーの子会社であるはま寿司が、よもや不当労働行為に手を染めるなどということはないと思うが、他産業を見てみると、黄色組合を利用してたたかう労働組合への攻撃をしかけてくるというのはまったく珍しい話ではないから、要警戒である。

そういえば企業内組合ホームページも、15分単位問題申入れ後にあわてて作成

そういえば企業内組合のホームページも、私たちが6月30日に15分単位問題等を申入れ、その後も組織を拡大し始めた折に突如として作成されたのだ。「ドメイン所有者検索」で企業内組合ホームページのドメイン「hsu.jp」を検索すると、2025年7月17日取得とある。そしてサイト公開日はおそらく2025年8月27日と思われる。まさに私たちの組合組織ができてきて、団体交渉でも成果を獲得しているさなかである。

この作成の時期と、「ゼンショー労連」加盟13単組の中で、唯一ホームページが一般向けに存在しているのも「はま寿司」だけであることもふまえると、6月頃に私たちがホームページに掲載した「はま寿司に採用されたクルーのみなさんへ」というよびかけページなどを見て、あわてて対策として自分たちのホームページを作成したとみるのが自然であろう。

しかし、労働組合というのは、何もご立派なホームページを作ったからといって組織を強化できるものでなければ、組合員の信頼を得られるものでもない。肝心なのはその組合がどのような方針をもってたたかい、どのように組合員の要求を実現するかということだ。それを抜きにして、「すべての労働者の声を集め、安心して働ける職場をつくるために結成された労働組合です」とか「労使が対立するのではなく、対話と交渉を重ねることで、お互いが納得できる労働環境づくりを目指します」などと書いてみたところで、実質が伴っていなければ意味がないのである。

とは言うものの、この「労働組合」の成り立ちや役員の顔ぶれを見ても、これを真の労働組合ならしめることはまず困難であろう。やはりはま寿司の労使関係の正常化には、はま寿司ではたらく従業員のみなさんが回転寿司ユニオンに総結集して正常化闘争を完遂することのほかに、道はあるまい。